

平成16年6月25日

第3号

素流協 News

平成16年6月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

「県産材利用拡大推進 需給協議会」を設置

素材生産事業の活性化および県産材の利用拡大を図るためには、生産される多種・多様な丸太を樹種別、品質・規格別に需要者の要望に応じて計画的・安定的に供給し得る体制を整備することが重要であります。

しかしながら、個々の事業体では需要者側の要請、すなわち質的・量的に多様な丸太を計画的・安定的に供給することについては、必ずしも十全に対応し切れていないのが実態であります。

そこで、県下の多数の素材生産事業体で構成されている素流協が供給者（素材生産者）側と需要（合板工場等）側の間に立って両者間の素材の円滑な流通を図る機能を果たすことにしたわけであり、具体的には、素材生産事業や間伐事業の過程で必ず発生する

小径材・短尺材等を岩手県沿岸に立地する二つの合板工場に安定的に供給することであり、

そのためには、素材に関する需要と供給の調整、原木流通体制の整備、流通させる素材の品質・規格や価格の動向等を調査・検討することが必要であるという観点に立って、「県産材利用拡大推進需給協議会」を設置することに致しました。

早速、去る六月二十一日、第一回目の協議会を盛岡市菜園の農林会館会議室において開催いたしました。以下に第一回需給協議会の概要を述べます。

一、協議事項

(1) 原木需給動向の見通しについて

①合板用県産材の供給量の実績と将来見通し

②合板用原木の輸入の現状と今後の見通し

・樹種別輸入量のすう勢と価格の変動要因について

・輸入量の将来の見通しと価格の変動要因について

③県産材の安定的な供給量の確保のための取り組みについて

(2) 木材の新しい流通・加工システム推進事業について

①供給協定の締結について

(3) 県産材認証制度の事務取扱について

二、協議内容

協議事項(1)①については、素流協から平成十五年度の合板用素材供給量の実績について、ホクヨープライウッド(株)と北日本プライウッド(株)ごとに樹種別・長級別・径級別の実績数値を示すとともに、計画に対する実績が七三％に止まったが、十六年度の計画量は、強気に四万九、六〇〇㎡とすることを説明した。

協議事項(1)②については、需要側からの委員である福田委員と

福崎委員から現状と見通しについて次のような説明があった。

◆ホクヨープライウッド(株)宮古工場では三万二千㎡/月の原木を使用するが、そのうち北洋カラマツが八〇%、残りはラジアーター(チリ産)・南洋材等で、それに国産材が加わる。

◆昨年のわが国の輸入材は、一、二〇〇万㎡で、中国への輸入材が二、六〇〇万㎡であり、中国への大きな輸入量が世界の木材貿易構造に変動を与え、ちなみに昨年八月からみて外材価格が四〇%も上昇して、合板用原木も七三ドル/㎡から一一八ドル/㎡に上がった。また、船賃も二〇ドル/㎡から四〇ドル/㎡と二倍になった。

◆南洋材の輸入量が減少しているが、インドネシアなどの輸出が減っているのが影響していると考えられ、これには不法伐採に対するチェック強化も強く関係しているのであろう。

◆輸入材の将来の見通しと価格の変動については、明確なことは言

えないが、中国の二〇〇八年オリンピック開催までの期間、世界の木材貿易の動向は、ある程度中国の経済活動に影響を受けることは確かであろう。

(1)―(3)については、下山委員(素流協理事長)から、「県産材の安定的な供給量の確保のための諸条件」として、立木調査段階、素材生産段階、原木流通段階においてそれぞれ解決すべき課題を提起するとともに、本年度前半にはホクヨープライウッド(株)宮古工場に供給する素材のロット拡大の観点から、納材を希望をしている青森県下北地域の素材生産事業体を素流協の賛助会員とすることを検討している旨の説明があった。

(2)―①については、下山委員から「新しい木材の流通・加工システムの構築」を推進するための一つの試みとして、素材の供給者と需要者の間で「素材の供給協定」を締結して、素材供給側が需要者側に計画的・安定的に素材を供給することを約束する、また、需要

者側は納材されるものの受け入れを担保する方式を提案した。具体的には、この協定は、木材安定取引協定の性格を持つもので、協定は次のような段階ごとに締結されることになるであろう。

◆森林所有者・素材生産者↑↓素流協

◆素流協↑↓合板会社
(3)については、岩手県林業振興課の小原副主幹から説明があった。
(内容省略)

三、需給協議会の委員

岩手県農林水産部林業振興課長

和佐健介

同 緑化推進総括課長

西村和明

東北合板工業組合事務長

井上国雄

ホクヨープライウッド(株)取締役工場長

福田忠一

北日本プライウッド(株)取締役社長

福崎健三

岩手県森林組合連合会専務理事

伊藤 實

岩手県造林事業協同組合専務理事

井上 栄
岩手県国有林材生産協同組合連合会専務理事
久保富男

岩手県素材流通協同組合理事長
下山裕司
岩手県素材流通協同組合理事

泉 藤吾
横澤孝一

六月の出荷実績速報

月間五、〇〇〇㎡の

大台を超すか!

六月の出荷実績は、現在集計中です。二十五日で約五、〇〇〇㎡となつていふことから、六月末には五、〇〇〇㎡の大台にのすることは確実な状況にあります。

十六年度計画量の達成の先行きに明るさが見えて来ました。

さあ皆さん、夏負けに氣をつけてガンバリましょう。



◎森林の減少・劣化が及ぼす影響

森林の減少・劣化が、人類ばかりでなくこの世界の生きとし生けるものに及ぼす影響について述べてみましょう。

(1)水循環に関する影響

世界の水利用量は、農業用や工業用、生活用を含めて一九九五年

ると予測しております。森林は、

樹木の幹や枝葉、土壌等に雨水を一時的に貯留し、河川の流量を平準化したり、水質を浄化する機能を持つていることから水の循環に大きく関係しております。このよ

うに水の循環という観点から見、

森林の存在、特にその森林が活力

る炭素の排出量は、全ての人為的

な炭素排出量の四分の一に相当すると推測しております。温暖化の影響は、二酸化炭素を排出する当

事国や森林が減少している国や地

域のみに及ぶのではなく、地球全体が受けることになるのです。また、「国連環境計画」の資料によ

ヒロシの独白

今なぜ、
国産材利用のための
需要喚起が必要なのか？



(その三)

(平成七年) 時点で一九五〇年 (昭和二十五年) の二倍を超えております。

また、一九九七年 (平成九年)

の国連報告「世界の淡水資源についての総括的アセスメント」では、二〇二五年 (平成三十九年) に水不足の状態におかれる人口の割合が、世界の人口の約三分の二にな

に満ちたものであることが大切であります。

(2)地球温暖化・砂漠化の進行に関する影響

森林は、地球温暖化防止に寄与する二酸化炭素の吸収源として重要な役割を果たしております。「世界森林白書二〇〇一」では、一九八〇年代の森林減少に起因す

れば、世界の陸地の四分の一が砂漠化の影響を受けているとしております。砂漠化の原因は、早魃等の気候的要因と過放牧、薪炭用材

の過剰採取等の人為的要因が長い年月の間で複雑に関係していると考えられております。森林の減少・劣化の進行は、その国や地域での木材不足、洪水や渇水だけでなく、

地球温暖化の進展、生物の多様性の減少、砂漠化の進行等、人類や野生動植物の生存に関わる地球規模の問題を深刻化させる恐れがあるというわけです。

(3)木材の貿易構造や木材供給力に関する影響

いずれの国でも自国内の木材消費量が生産力を上回ると、通常、不足分は輸入による供給に頼ることになるわけですが、開発途上地

域の中には、木材を輸入するだけの経済力がなくて国内の森林を過剰に伐採したり、木材消費量が生産量を上回らなくても外貨獲得の手段として、自国内の森林の生産

能力以上に伐採して輸出してしまう国も存在するのです。その結果、

それらの国では、森林の減少・劣化が引き起こされることになりま

す。森林の減少・劣化が進行した国では、丸太の生産量や輸出量が

激減しているとともに、かつての木材輸出国が輸入国になったりしております。その結果、以前から

の木材輸入国が輸出相手国の変更を余儀なくされるなど、世界の木材貿易の構造が変化してきました。例えば、タイやフィリピンは、以前は丸太の純輸出国だったので、国内森林資源の激減による伐採制限・木材輸出の禁止措置を機に、木材の国内生産量が減少し、国内需要を賄うために木材の純輸入国に変わりました。

(4)森林の持続的利用に配慮した木材生産や貿易に関する影響

木材貿易と環境の関係のあり方については、現在でも国際会議の場で議論されており、いまだ意見の一致をみていないと言ってもよいと思いますが、それほどこの問題は複雑な要素を含んでいるのです。具体的にいうと、限られた輸出品目しか持たない開発途上地域の国においては、木材は重要な輸出品でありますから、ともすれば外貨獲得のためには無秩序な商業伐採や過剰な伐採が行われがちであり、とくに違法な伐採の横行

が問題となっております。逆に言えば、先進諸国が森林資源の持続的利用の配慮を欠いて利便性やコスト等の経済的な側面のみを優先させた木材貿易を展開する場合、過剰伐採や違法な伐採を誘発することも考えられ、そのことよって森林の減少・劣化に拍車をかける恐れがあります。



前号の訂正

第2号「ヒロシの独白」、二段目左から二行目の「百六十万ha」は「一千九百万ha」、四段目右から六行目の「傾向にある物」は「傾向にあるもの」の間違いでした。おわびして訂正します。

トピックス

福崎健三北日本プライウッド(株)取締役社長のご祝辞

去る五月十四日に行なわれた素流協の通常総会において、福崎健三北日本プライウッド(株)取締役社長から素晴らしいご祝辞を頂戴いたしましたので、ここにご紹介いたします。

◎ご祝辞

第一回通常総会おめでとうございます。設立一年目で計画比七三％の実績を上げられたのは下山理事長の強いリーダーシップの下で組合員の皆様が団結した結果だと思えます。さて、供給を受ける側としまして二、三、感じていることをお話致します。

ひとつには、県産材を使う場合、林野庁の言うB材を念頭に置いて使うわけですが、そういう材だけで物をつくるといういろいろな欠点が出てきます。合板の場合は何層にもして使うため、面体のなかで欠点分散され使うことができるも

のと考えます。

木材は国際商品でありどうしてもコストの問題が出てきます。地域資源の有効活用の問題等もいろいろ出てきますが、最終的には経済的な厳しい条件があります。いままでもわれわれは輸入材に頼ってきたわけですが、輸入先を見ると、早生樹の改良が行われています。そのような努力がわが国には足りなかつたのかなと思っています。今の科学技術を駆使すれば、日本の風土に合った品種改良も可能ではないかと行政にお願いしたいと思います。

曲り材、短尺材、小径材などのB材を使う場合、製造設備の問題として効率的に剥く機械と、スギの場合特に乾燥しにくいので、生産性を上げるために早く乾燥するシステム、この二つがコストを低減する大きな要因となります。宮古工場では六月の末に、大船渡工場では十一月に剥く方の機械を導入しますので、剥く体制は整います。後は乾燥ということ、受け

入れの方は着々と進めて参りますので、是非、安定供給して下さい。ようお願いしたいと思います。

『素流協から』

去る六月二十一日、素流協の主催する第一回県産材利用拡大推進需給協議会を開催いたしました。その概要については、今月号の素流協ニュースの一面に掲載されております。等協議会の目的は、単刀直入に言えば、県産のカラマツ・アカマツ・スギの小径、短尺の丸太の需要先の確保と拡大および掘り起こした需要先の各種要請に適切に対応するための供給・流通体制の整備についてどのように最適化を図っていくか、その方策を検討することにあります。

当協議会は、平成十六年度には四半期に一回開催する予定であります。協議会委員は、素材に関する需要者側および供給者側の代表の方々が多く入っておりますので、地についた実践的な議論が期待できるとしております。素流協としては、当協議会の検討結果を参

考にしなから、積極的な事業活動を展開してまいりたいと考えております。

『北日本プライウッド(株)から』

当社の国産材用の丸太土場はこれまで未舗装であったため、丸太を搬入・納材するとき出荷者になにかと不便をかけておりましたが、六月初めにこの土場(五、七〇〇㎡)の舗装工事に着手し、六月十七日に工事完了いたしました。舗装された土場は「国産材専用土場」として使用することといたしましたので、どんどん出荷されますよう期待しております。

なお、工事期間中は「出荷休止」にご協力いただき誠にありがとうございます。ございました。

◇ ◇ ◇

『ホクヨープライウッド(株)から』

増田知事が当社を視察

知事は六月四日、林野庁の新規事業「木材の新しい流通・加工システムモデル整備事業」の候補工場となつている当社を訪れ、福田

工場長等から合板業界の現状、国産材針葉樹丸太の利用状況等を聞きながら熱心に視察されました。



【奥から、山瀬宮古地方振興局長、増田知事、熊坂宮古市長、瀬川宮古地方振興局企画総務部長】



【工場内を視察
説明者は、福田取締役工場長】



【知事が見ているのは、ホクヨープライウッドが開発した、中に炭を入れ込んだ天井用合板である。説明者は、林取締役総務部長】

5月の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した、合板用丸太の平成16年5月の販売実績は下表の通りです。

5月も出荷が好調で、月間の出荷実績が3,700m³を超えましたが、年間計画49,000m³÷12カ月=4,083m³にもう一步です。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)			樹種毎 %	径級毎 %
			m ³	m ³				
スギ	1.9	14上	676	350	1,026	1,975		55.0
	4.0	14上	393	452	845	1,589		45.0
	計		1,069	802	1,871	3,564	50.0	100.0
カラマツ	1.9	14上	1,059	203	1,262	2,373		97.0
	4.0	14上	16	42	58	76		3.0
	計		1,075	245	1,320	2,449	35.0	100.0
アカマツ	1.9	16上	238	148	386	785		84.0
	4.0	16上	1	70	71	147		16.0
	計		239	218	457	932	13.0	100.0
サワグルミ	1.9	20上	67	0	67	155	2.0	100.0
合計			2,450	1,265	3,715	7,100	100.0	100.0

編集後記

▽今は亡き山本夏彦が自著『かいつまんで言う』の中で、十年前にしばしば遊んだバーへ十年たって行ったら、一人も知った女がいないのいいのである。「まーしばらく」と言って、十年前の女たちが勢揃いして出てきてはいけないのである。それは「失礼」なのである」と書いている。なかなか意味深長な文章であるが、編集子の解釈するところでは、人も組織も世間全般も日々刻々と変化するものがあり、夏彦氏のいうような店があつて十年という長い期間を経ても中身(十年という齢を重ねた女性軍)がちつとも変わっていないというのは尋常ではないということである。

とは言うものの、昨今の交転目まぐるしい浮き世の波に翻弄されている編集子としては、タイムストップした空間を漂っていたと思うのだが、十年前、二十年前に通ったお店は一つも残っていないのである。嗚呼無常。